

# 地域とともにある学校



産声をあげた Community School

コミュニティ・スクール

現代では少子高齢化が進み、地域社会のつながりや支え合いが弱体化しています。子どもたちは生活経験や社会性が乏しく、教職員は複雑化・多様化した学校の課題に伴い多忙を極めていきます。東温市では、このような環境変化の中、地域と一体となつて子どもたちを育む「地域とともにある学校」への転換を目指して、平成31年度から拝志小学校、川上小学校が「コミュニティ・スクール」の導入モデル校として動き始めました。今月はコミュニティ・スクールの概要と、2校の展望、今後地域と学校がどのように関わっていくのかを紹介します。

コミュニティ・スクールってなに？

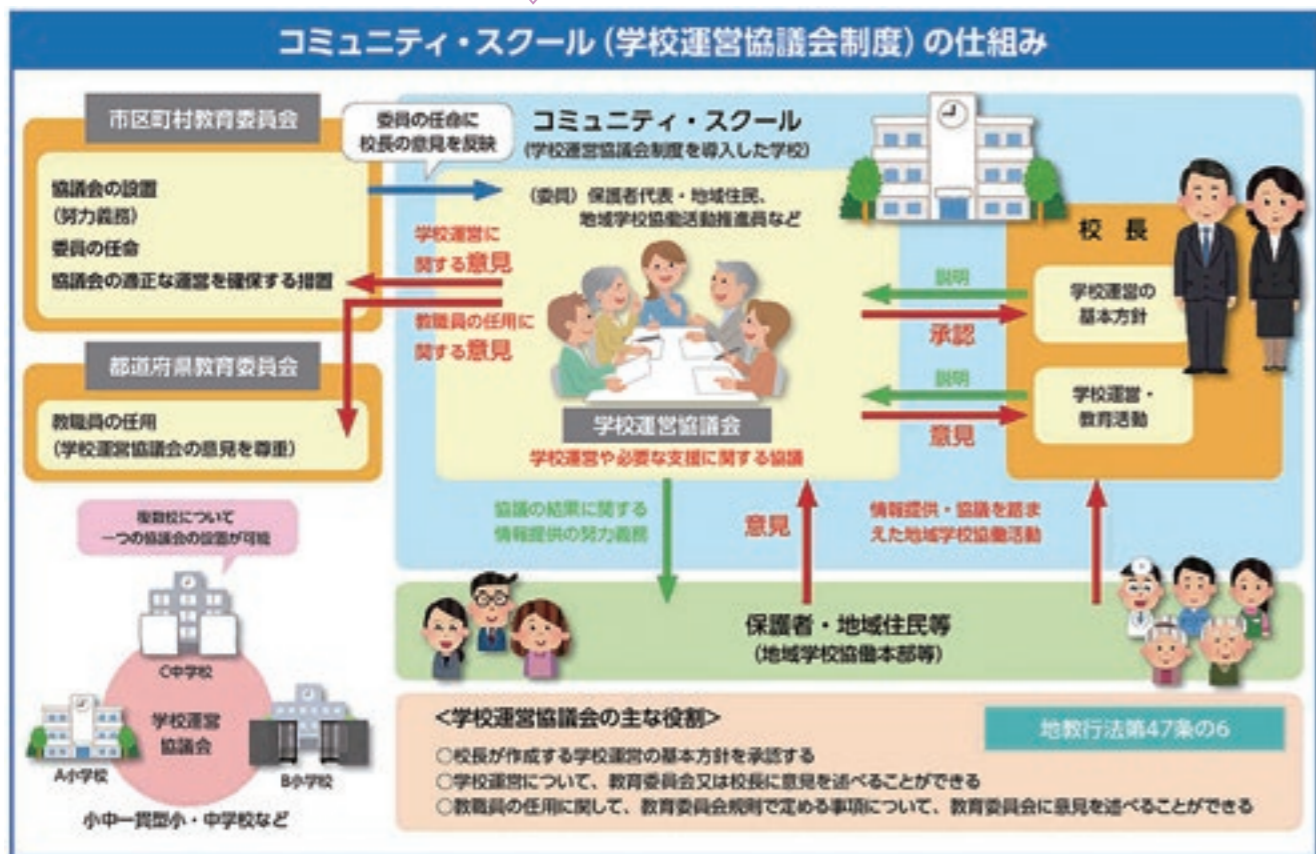
コミュニティ・スクールとは、学校と保護者、地域住民などが構成員となる「学校運営協議会」を設置した学校のことです。参画者が共に知恵を出し合い、学校の運営や地域で子どもたちをどのように育てていくかを考え、取り組む仕組みです。学校運営に当たっては、保護者や地域住民の参画を制度的に保障する仕組みになっているところが他の学校と違うところです。

学校と地域が力を合わせることに、互いに信頼し合い、それぞれの立場で主体的に子どもたちの成長を支えていく学校づくり、地域コミュニティづくりを進めていくことが、コミュニティ・スクールの一番のねらいです。

コミュニティ・スクールで必要なことは？

これまでも学校と地域は、授業補助、環境整備、登下校の見守り、放課後子供教室など多くの場面で協働活動が進んでおり、保護者はもちろん、地域住民や関係者が学校の取り組みや子どもたちに直接関わる機会が増えています。これからは、「自分たちの地域の子どもたちが、どのように育ってほしいか」「どうすればより良い教育環境が生まれるか」という情報や目標の共有が必要で、この共有が十分でないと、一方が他方に「お願い」をし、それに対して「支援をする」という、貸し借りのような関係になってしまふことがあると言われていまふ。学校と地域が対等な立場に立ち、お互いに当事者意識を持って、協働で地域の子どもを育てることが重要です。

コミュニティ・スクールは、すでに全国で多くの事例研究がされています。「協議会を作っただけ」「仕事が増えただけ」にならないようにするには、どうすれば良いか、多くの参画者が必要です。



▷文部科学省 HP「コミュニティ・スクール」より引用

コミュニティ・スクールを導入することで、保護者はもちろん、地域住民も教育の当事者となり、責任感を持って積極的に子どもへの教育に携わることができるようになります。東温市ならではの特性を生かせば、子どもたちの学びや体験はさらに広がります。また、保護者や地域住民と学校が顔の見える関係になれば、理解と協力体制が深まり、教職員が子どもと向き合う時間が確保されていくことも期待できます。

登下校時の見守りや職場体験など「自分にできること」「これまででもやってきた」活動の継続が大きな力になります。学校・家庭・地域が手を携え、「とうおんの子どもたち」がより良い未来へ羽ばたいていけるよう、協働していきましょう。



拝志小学校 井原 聡博 校長

## コミュニティ・スクールは、地方創生につながる。

豊かな自然環境や田園風景が広がる拝志小学校区。井原校長を受けるなど取り組んできました。初導入のコミュニティ・スクールに向けた展望を伺いました。「地域教育は、学校だけではできません。都市部へ人口流出が進む東温市で、地域の担い手を育てるという観点からもコミュニティ・スクールは必要と感じていました。しかし、これまで地域と学校が、何も連携していなかった訳ではありません。例えば農業分野では、地元農家の方に野菜の栽培方法を教わり、防災分野では、過去に浸

出が進む東温市で、地域の担い手を育てるという観点からもコミュニティ・スクールは必要と感じていました。しかし、これまで地域と学校が、何も連携していなかった訳ではありません。例えば農業分野では、地元農家の方に野菜の栽培方法を教わり、防災分野では、過去に浸

を生き抜く力を育てると同様に、郷土愛も育てないといけない」と続けます。「大きく育った拝志っ子が、「大好きな地域に帰ろう。育った地域をもっと良くしよう」と思い、帰ってきてくれる流れをつくるのが、地方創生に対する教育分野からのアプローチと考えています。地域の魅力を発信すること、と考えて移り住む人たちが出てくるかもしれない。今住む人たちにとっても、メリットがある取り組みだと思います」

◇ ◇ ◇ ◇ ◇

伝統芸能など地域の風土が生きる川上小学校区。森本校長は、これまで培われてきた、川上小学校の良さを継承した取り組みに期待を寄せます。「赴任して感じたのは、地域のつながりの深さです。1人の児童の登校を、地域の方が手助けして学校まで付き添ってくれました。学校のお願いでなく、地域の皆さんが自主的に見守り活動を行ってくれているのは、この地域の強みと感じます」。学校連

を生き抜く力を育てると同様に、郷土愛も育てないといけない」と続けます。「大きく育った拝志っ子が、「大好きな地域に帰ろう。育った地域をもっと良くしよう」と思い、帰ってきてくれる流れをつくるのが、地方創生に対する教育分野からのアプローチと考えています。地域の魅力を発信すること、と考えて移り住む人たちが出てくるかもしれない。今住む人たちにとっても、メリットがある取り組みだと思います」

◇ ◇ ◇ ◇ ◇

伝統芸能など地域の風土が生きる川上小学校区。森本校長は、これまで培われてきた、川上小学校の良さを継承した取り組みに期待を寄せます。「赴任して感じたのは、地域のつながりの深さです。1人の児童の登校を、地域の方が手助けして学校まで付き添ってくれました。学校のお願いでなく、地域の皆さんが自主的に見守り活動を行ってくれているのは、この地域の強みと感じます」。学校連



川上小学校 森本 久美 校長

## これまで育まれた川上の強みを生かせば、さらに充実する。

これまで育まれた川上の強みを生かせば、さらに充実する。